

◆ 基礎情報

計画名	館園実習における共立リーダーシップの実践
実施責任者	教育学術推進課 畑中和花
対象者	学芸員資格取得を目指す学部4年生
実施期間	2025年4月1日 ～2026年3月31日

◆ 取組み概要

本取り組みは、本学博物館での館演実習における共立リーダーシッププログラムの活用をさらに深め、整えられた学習環境の中で学生に実践的な学びの機会を提供するとともに、その成果を実習内にとどめず学内・学外に見える成果物にすることで、共立リーダーシップの認知を高めることを目的としている。

本取り組みの特色は、多様なバックグラウンドを持つ複数学部の学生が集まる環境で、短期間での濃密な協働活動が求められる点にある。正課の授業や正課外の学生活動などが、半期あるいは通期という長い期間を以って行われるのに対し、本取り組みは初対面の学生同士が集まる環境でわずか5日の間に行われるものである。こうした即応性が求められる協働活動を行う経験は、卒業後の社会生活に直接結びつく実践的な学びの機会になると考えられる。また、本取り組みを学外に発信するため、夏に開催されたオープンキャンパスにおいて、共立女子大学・共立女子短期大学の進学を目指す高校生とその保護者に向けて、館園実習体験プログラムや、特別展示を開催した。

◆ 取組み全体の流れ

①事前学習

主導者である学芸員同士での共立リーダーシップの事前学習に取り組む。学芸員は嘱託職員であるため、正規職員が受講する研修には参加していない。そこで、館園実習内に共立リーダーシッププログラムをうまく落とし込むため、様々な参考資料を用いて事前学習に取り組んだ。

また、集中講義に向けてスライドなどの資料作成に取り組んだ。

②実技実習

【期 間】前期:5/12～6/17で各グループ2日間ずつ 後期:9/29～11/4で各グループ2日間ずつ

【グループ】10グループ(1グループあたり、4～6名)

【人 数】49名

③学外施設見学

第1回(2025/6/7) 於:東京国立近代美術館

第2回(2025/10/16) 於:明治大学博物館

それぞれ見学後にレポートの提出課題を課し、ただ鑑賞だけでなく、学芸員の目線で見学することを目的に組み込んだ。また、グループ内で気づいたことを共有することを促した。

④集中講義

【期 間】前期:6/24～6/26 後期:11/10～11/12

【グループ】前期:5グループ 後期:5グループ

【人 数】前期:25名 後期:24名

最終日は模擬展覧会の制作発表会を2号館2階のオープンプレゼンテーションエリアで実施

⑤振り返り・フィードバック

実習生の感想をマイステップで集約し、個別にフィードバックをする。また、個別だけではなく、グループ全体に向けたフィードバックも行う。

◆ 取組みの成果

- ・[実技実習・写真](#)
- ・[集中講義・写真](#)
- ・[【学外施設見学】東京国立近代美術館](#)
- ・[【学外施設見学】明治大学博物館](#)
- ・[【広報】オープンキャンパス](#)

◆ リーダーシップ教育に関する実践

共立リーダーシップの意識づけ、目標設定の活動	共立リーダーシップの各要素を実際の活動に落とし込むため、目標設定を促した。実技実習、および集中講義はそれぞれ日程が連続しているため、2日目以降は前日の活動を踏まえて目標設定をするサイクルを構築した。また、1日のはじめに目標設定を行った上で協働活動をし、1日の終わりには振り返りをするというサイクルを構築できたことによって、協働活動内でも学生間で積極的に情報の共有と目標の見直しを実施することができていた。また、アイスブレイクにより、短期間の活動ながらも、お互いを理解する良いきっかけ作りができた。
協働活動	2日間の実技実習においては、資格取得のために必要な学習を妨げない程度に、集中講義に向けて学生間の親睦を深め、お互いのことを理解することができるよう、学芸員も積極的に学生の輪に入り、コミュニケーションを図った。そして、集中講義においては、最後まで同じ目標に向かってそれぞれが円滑に活動できるよう、学生たちが各自の目標や役割分担を定期的に確認する時間を設けた。また、それをグループ内に留めず、他のグループがどのような目標を持って役割分担をしているかをグループごとに発表する機会も設けた。
共立リーダーシップの観点での振り返り	これまで目標や目的は、各自のマイステップに記入をしてもらうのみにとどまっていた。そのため、今年度からは各グループごとに目標の共有や、取り組みの際の情報共有を積極的に促した。グループワーク開始時と終了時には1日の振り返りとして、目標の見直しや、翌日以降の活動のための反省点・改善点を話し合う時間を設けた。集中講義の際は、グループごとにその日の振り返りを発表してもらい、互いの刺激になるよう促した。

◆ 学生の成長に関する総括

共立リーダーシップの3要素である「目標設定」・「率先垂範」・「相互支援」を意識した活動をしたことで、実習生もこれらについて触れながら感想を記入していた。したがって、取り組み全体を通して共立リーダーシップを意識した取り組みができたと考える。1日のはじめに目標設定を行った上で協働活動をし、1日の終わりには振り返りをするというサイクルを構築できたことによって、協働活動内でも学生間で積極的に情報の共有と目標の見直しを実施することができていた。「いかに仲間を支援しあえるかが、最大の成果を全員で発揮することに繋がるということを肌で実感した3日間でした。」「作品をグループのメンバーでそれぞれにピックアップしたり、鑑賞していくにあたって、効率よく進むように皆で声をかけながら進めました。みんなで歓声を上げるほど素敵な作品も多く、その感覚を共有できたことも、グループワークならではの点。」など、ポジティブな感想が多く見受けられた。

◆ 取り組みを通じた全体の所感

本取り組みは、共立リーダーシッププログラムの活用をさらに深め、整えられた学習環境と実践的な学びの機会の提供を目標として設定していた。共立女子大学博物館における館園実習は、共立リーダーシップが目指す協働活動にうまく当てはめることができ、館園実習の内容も大変充実したものとなった。それは、私達学芸員の所感だけでなく、実習生の感想や取り組みの姿勢からよく伝わってきた。状況に応じて全員がそれぞれの強みをいかして発揮している状態を目指す「シェアード・リーダーシップ」のアプローチを包含する、いわゆる他者との協働に根差した相互支援型の「リーダーシップ」という点において、館園実習を履修している学生の特性ともうまく合っていた。また、主導する学芸員が学生に近いからこそできることもあった。実習生への声かけや、ラコーモ、図書館などの学内施設の活用の促進など、グループワークが円滑になるように主導側が必要に応じて働きかけることが、本取り組みにおいて大切であることを実感した。

◆ 今後の展開

担当する学芸員が変わっても本取り組みが永続的にできるよう、記録や成果物を残し、共立リーダーシッププログラムを活用した館園実習を定着させていくことを目指す。